

はまぎく

第121号
発行

〒970-8003
いわき市平下平窪字熊ヶ平6番地
TEL (0246) 23-5311
FAX (0246) 23-5312
はまぎく荘新聞編集委員会
HP <http://hamagiku.i-fukuin.com>
E-mail: kuma-house@mx5.et.tiki.ne.jp

●紙面紹介●

- 1面 共生共感
- 2面 今年度事業計画
支援 男子棟/女子棟
医務/栄養
- 3面 令和4年度行事計画
作業班活動紹介
自治会役員
- 4面 はまぎく荘のうごき
編集後記

共生共感

所長 植原明美

新しい年号の令和になり四年になりました。毎朝コロナウイルスの感染者の数を聞くたびに一喜一憂している毎日です。この様な気持ちでいる人は他にも沢山いる事と思

い、いつになったら収束するのだろうと日々思っています。はまぎく荘の利用者からも「Dランドにいききたいの」「焼肉食べに行きたいの」「旅行に行きたいの」等のお話があるたびに「コロナが落ち着いたら行こうね」と何度言っただことかしれません。ウイズコロナで新しいライフスタイルでどのように行動すれば利用者及安全・安心に行動できるか模索して時間ばかりが過ぎていきました。不安なこととは沢山ありますが、今年

ウイズコロナの一步としてみんなです。みんなが一番楽しみにしている旅行を二年実施できずにいましたので、今年ウイズコロナで、利用者の満面の笑顔が見られるように職員が計画を立てています。個人的にはとても楽しみにしております。

十三年前に静岡でイベントに行つた際に、話しかけたり、撫でたりすると反応するアシカに似たぬいぐるみ二頭に会いました。福祉関係のブースでした。担当の方は老人施設の需要を話していました。癒しになる動物に替わる介護ロボット？だったのかと思います。

とてもよく出来ており遠目でみたら陸に上がったあしかで高額でした。しかし三年ほど前に利用者がお土産店で三千元以下の同じ様な性能の

犬を購入しました。話しかけると反応しお店にあった犬は完売するほど利用者に人気を得ました。アイボまではいかないしても利用者個人の愛犬となり、AIというのかわロボットという物が身近になってきたことを改めて感じました。

介護や当施設も通年人手不足。この問題は大小はあってもずっと続くことと思えます。少子化・高齢化社会に対してどのように対応していくのか考えると、介護ロボットの導入もそう遠くないのかもしれないかもしれません。しかし絶対に人の手でなくてはならないことが多い仕事のなかでこの部分は、絶対人の手で、この部分は介護ロボットが対応できるかなと職員みんながシミュレーションしておくの必要かと考えます。未来の福祉を職員みんなで想像するのも楽しいですね。



今年度事業計画



利用者一人ひとりの尊厳を重んじ、利用者本位の考えに立って利用者の自立を支援すると共に、良き支援者として専門的役割を自覚し使命を果たす事を基本理念としています。

《支援》

高齢化・重度化が進む中、一人一人が必要とするサービスの提供を行い、健康で元氣な生活が送れるよう支援します。意思決定支援と地域移行に向けた取り組みを行います。創作活動を通して「個性」を表現する力の発信に努めます。施設行事を通して家族との交流の場を設けます。

《職員構成》

所長、サービス管理責任者、支援員十三名、看護師一名、栄養士、事務、パート八名の二十七名です。

《施設整備》

みはま体育館外壁改修工事を行います。

高架水槽撤去に伴う施設内給水設備改修工事を行います。

前年度、新型コロナウイルス感染症状況の為実施出来な

かった男女居住棟居室改修工事、作業棟プレハブ改修工事を行います。

安全且つ快適に生活する為の環境整備を必要に応じて行います。

《防災関係》

火災・地震や豪雨による土砂災害を想定した避難訓練を毎月実施し、またライフラインが絶たれた事を想定しての非常食を使った炊き出し訓練や防災設備の確認と管理を行います。

《新型コロナウイルス対策》

昨年度に引き続き、マスクの着用、手指消毒の徹底し感染症予防に努めていきます。また利用者のストレス軽減を図り、不安にならない体制作りを努めます。



支援より。

男子棟

今年「後厄」の私は、BIGBOSS()と新庄監督の「厄年は人の役に立つ年」という発言に、とても励まされました。好きな四文字熟語は特にはないのですが、響いた言葉はメモに残しています。「現状維持は後退に等しい」は私が利用者支援において心がけていることです。これからも観察力と向上心を忘れずに、利用者の皆さんと向き合っていきたいと考えています。男子職員は少数精鋭ですが、さらに良くしようという雰囲気、力を合わせて日々乗り越えていきたいと思えます。

女子棟

昨年度女子棟に新しく二名の方が入所され一年弱が過ぎました。二人ともはまぎく荘の生活に慣れてくれたようで、笑顔をたくさん見せてくれます。そして年度末には一名が退所し法人内の他事業所へ移行されました。利用者さんたちもお別れの言葉を交わし、涙する方もいました。

言葉のない利用者さんも多くいますが、喜怒哀楽の感情をきちんと表し私たちに思いを伝えてくれます。コロナの影響でより一層健康に留意するようになりましたが、健康面だけではなく利用者さん一人ひとりの気持ちに目を向けて、その人らしい生活が送れるよう支援していきたいと思っております。

医務より。

新型コロナウイルス感染症が沈静化することなく約二年が経ちました。令和四年度に入っても、いわき市の感染者の数は加速的に増加する事はなく、現状維持にて耐えています。現在、はまぎく荘では感染者が発生することなく過ごすことができています。それは、利用者及び保護者の皆様の日頃からのご協力があつてこそその結果だと思えます。これからも、利用者の健康安全を看護師はじめ施設職員全体で努めてまいりますので引き続きご理解ご協力の程宜しくお願ひします。

栄養より。

例年に引き続きコロナウイルスにより、外出が制限されています。その中でも利用者の方々にな少しでも楽しんでいただけるように、嗜好調査で聞き取りをし、意見が多かったものの中から簡単に作れるものを料理教室で作って食べ、給食では委託業者と連携し「リクエストメニュー」として提供していきます。

その他、毎月の行事食で季節が感じられる食事や個々の状況に応じた食事の提供が出来るように努めて参ります。



令和4年度行事計画



4月…よ花見

5月…所内研修 (AED)

6月…遠足

8月…夏祭り

所内研修 (AED)



10月…芋煮会

11月…所内研修 (AED)

12月…忘年会

クリスマス会



2月…所内研修 (AED)

3月…保護者との研修会

毎月…誕生会・外出活動

創作教室・避難訓練

自治会・料理教室

ミュージックケア

作業班活動紹介

工芸1班

ぬり絵、イラスト、貼り絵に
プラバン、工芸1班は利用者さ
んの個性が輝く作業班です。

みんなの特技を生かしなが
ら、楽しく活動できる場を目指
します。ひとつの活動だけにな
く、様々な活動を通して、好き
なことが増えていくのも、工芸
1班の魅力の一つです。できあ

がった作
品、ぜひ
見て下さ
い！

工芸2班

季節を彩る飾りつけを楽しみ
ながら、音楽鑑賞や、ゆったり
実施できる運動等を行う工芸2
班。今年はどうな楽しい活動を
しようかもくろんでいます。以
前よりも制限されることが多い
活動内容を、どのように工夫し
て素敵なものにできるか。職員
の腕の見せ所です。利用者の充
実した日課のため、色々な場所
や物事にアンテナを張っていき
たいと思います。『こんな活動
をしているよ』これは楽しかつ
たよ』等のご意見ございました
ら、ぜひ教えてください。

環境班

環境班といえば恒例のじゃが
いも作りですが、実は昨年は不
作の年となってしまうました。
作物がひとつ実るのもそう簡単
ではないと素人ながら実感し、
今年こそは(美味しいふかし
も、もしくはじゃがバターを皆
で食べたい)とひそかに燃えて
います。元気印の環境班として、
しっかりと水分補給・UVケア
もしながら、心地良い汗を流せ
たらと思います。尚、アドバイ
スやアイデアは随時受付中で
す。

令和4年度自治会役員

会長



立野淳子さん
買い物行ける
よつにしたい

副会長



吉田茂さん
副会長、
俺がやんだ

書記



佐藤トモ子さん
楽しく
過ごしたい



山崎秀男さん
綺麗に
字を書きます



長谷川真子さん
書記
がんばります

Movement of Hamagiku-so

はまぎく荘のうごき



入所利用者

八木 誠さん



四月から はまぎく荘に新しい利用者が入所となりまして。八木誠さんです。はまぎく荘でのシヨートステイを利用されていた事もあり、入所後も色々な方に声をかけたり、握手を求めたりととてもフレンドリーな方です。八木さんが入った事で男子棟の中もより楽しく、なごやかな雰囲気になっていきます。

退所利用者

藤野勝弘さん



藤野勝弘さんが、三月三十一日付ではまぎく荘を退所され、野の花ホームへ入所となりました。藤野さんと言えば、はまぎく荘きつての甘党で、ようかんやじゃんがらなど、甘い物には目がありませんでした。至高の甘味を口にしたときの表情といった。あずき派の藤野さんですが、この世にはおいしいスイーツがまだまだたくさんあるの、しあわせの味を探求し続けてほしいと思います。これからも藤野さんらしく、エネルギッシュでいてください。



永崎千代子さん

三月三十一日付で永崎千代子さんがはまぎく荘を退所し、同法人の野の花ホームへお引越しすることになりました。平成十八年にはまぎく荘へ入所し、はまぎく荘の『お母さん』的存在として欠かせない存在でした。細かい作業や文字の読み書きが得意でピースで作ったネックレスな

異動職員



四月よりカナン村から異動してまいりました、磯上綾と申します。この法人に入りまだ分からない事が多く不安もありますが、一日でも早く利用者様の名前や顔を覚え、安心して生活できるよう頑張りたいと思いますので、これからよろしく願います。

エデンの家より異動 菅崎 智啓

棟内改装工事



昨年予定していた改装工事は、コロナ感染のため実施できませんでした。今年度は状況を見ながら実施することとなりました。居住棟の廊下、ディールの壁、床のクロスをはりかえます。男女棟それぞれが明るいイメージになるように思案中です。お盆の頃にはお披露目ができると思います。

退職職員



田井 則子 (看護師) 定年退職

今後はパート職員として勤務します。

六戸 寿成 (支援員) 阿部慎太郎 (支援員)

みはま福祉祭(祭) 中止のお知らせ

in はまなす

去年に引き続き、みはま福祉祭は中止となります。新型コロナウイルス感染防止のため、ご協力をお願いします。

編集後記

看護師の田井さんには今後もお世話になりますが、六年勤めた穴戸さん、二年勤めた阿部さんは退職となりました。また、入所者、退所者もあり、はまぎく荘のメンバー構成が大きく変わりました。居住棟と男女棟の工事が終われば、さらに大きな変化があるでしょう。利用者がどのような反応をするか、とても楽しみです。

今年例年よりも遅い桜の開花だったので、その分長く春の気配を感じることができました。四季とはいっもの、温暖化の影響で、季節を感じ辛くなってきている今日この頃。うつりゆく儂さに想いを馳せてしまいます。

広報誌「はまぎく」121号で高覧ください。

